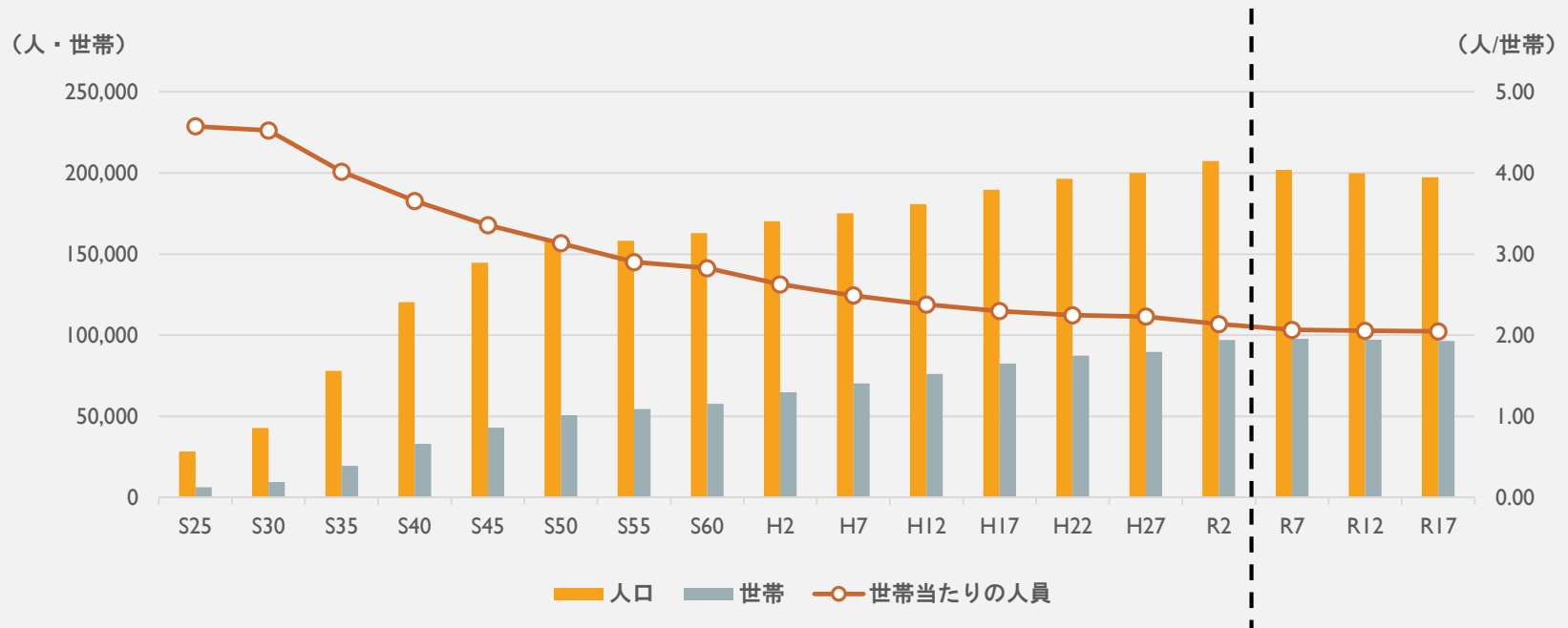


# 西東京市の住宅事情と 住宅マスタープランについて

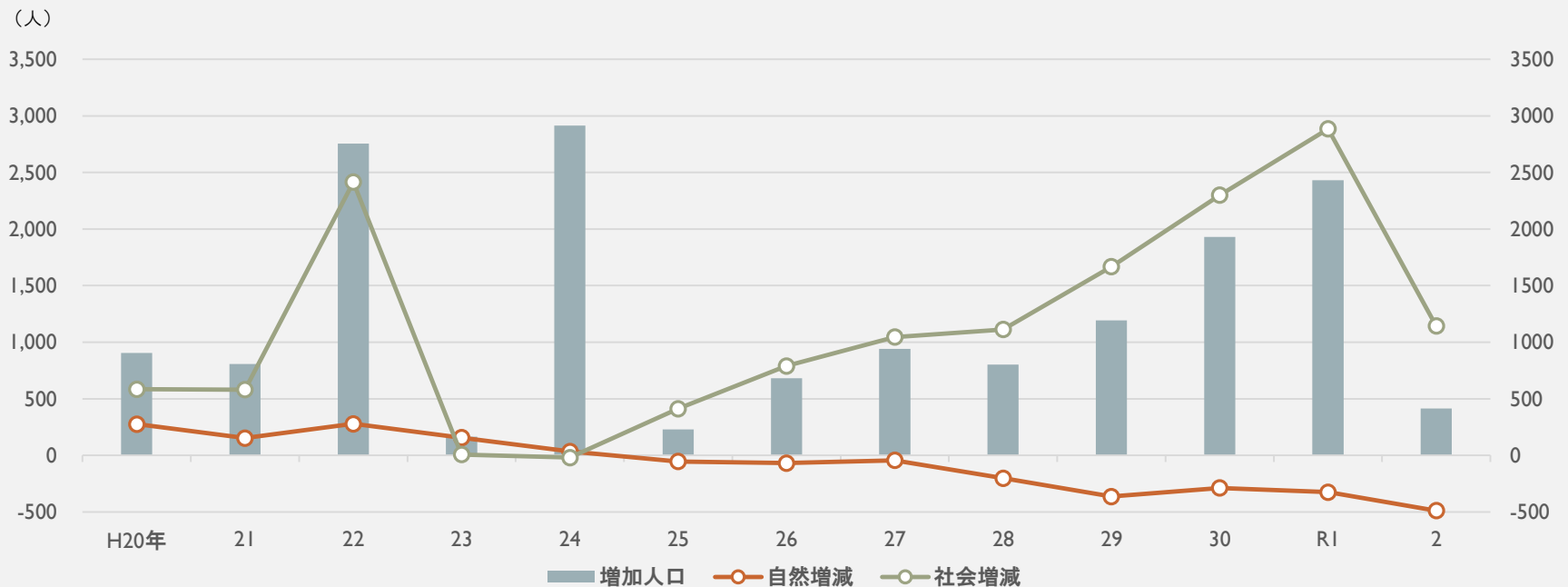
# 1. 人口・世帯・世帯人員の推移

令和2年の西東京市の人口は、201,817人、世帯数は97,694世帯、1世帯あたり人員は2.07人  
将来人口推計では、人口は減少、世帯数と1世帯あたり人員は横這いで推移すると予想される



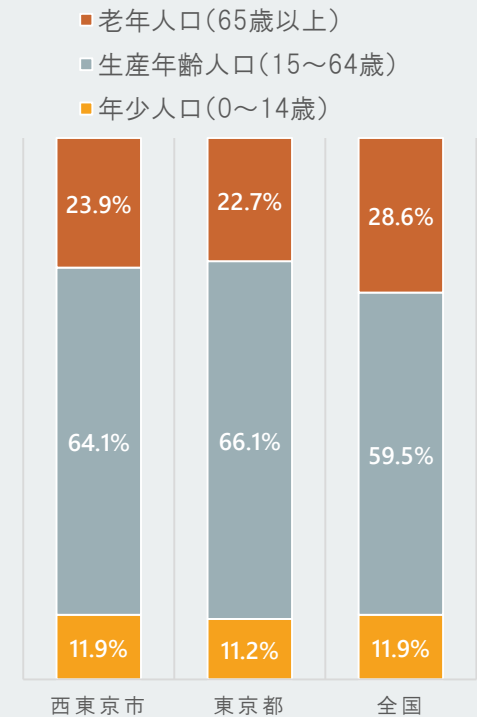
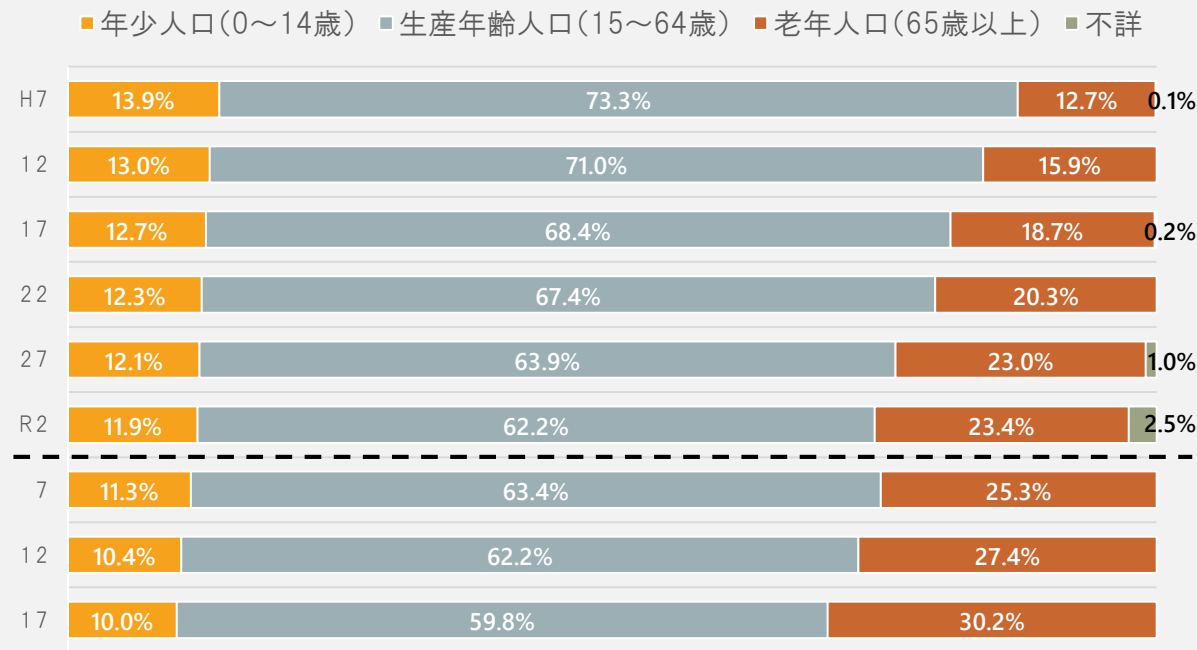
## 2. 人口動態の推移

自然動態は平成25年以降自然減が続いており、令和2年には-489の自然減となっている  
 社会動態は平成24年以降転入超過が続いている、令和2年は転入数が減少し1,143の社会増となっている



### 3. 年齢3区分別人口構成の推移

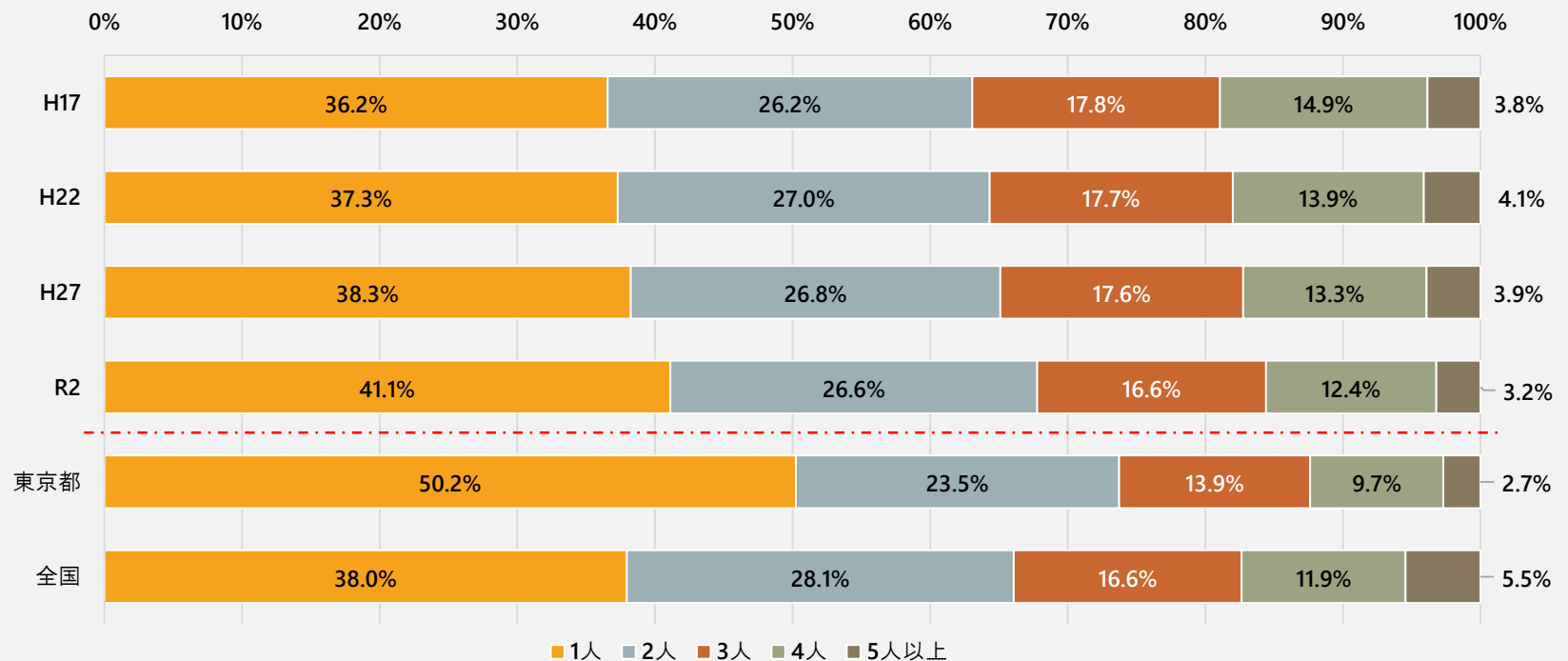
年少人口及び生産年齢人口の割合が低下し、少子高齢化が進んでいる  
年齢3区分の構成比は東京都とほぼ同様な割合となっている



## 4. 世帯人員数の推移

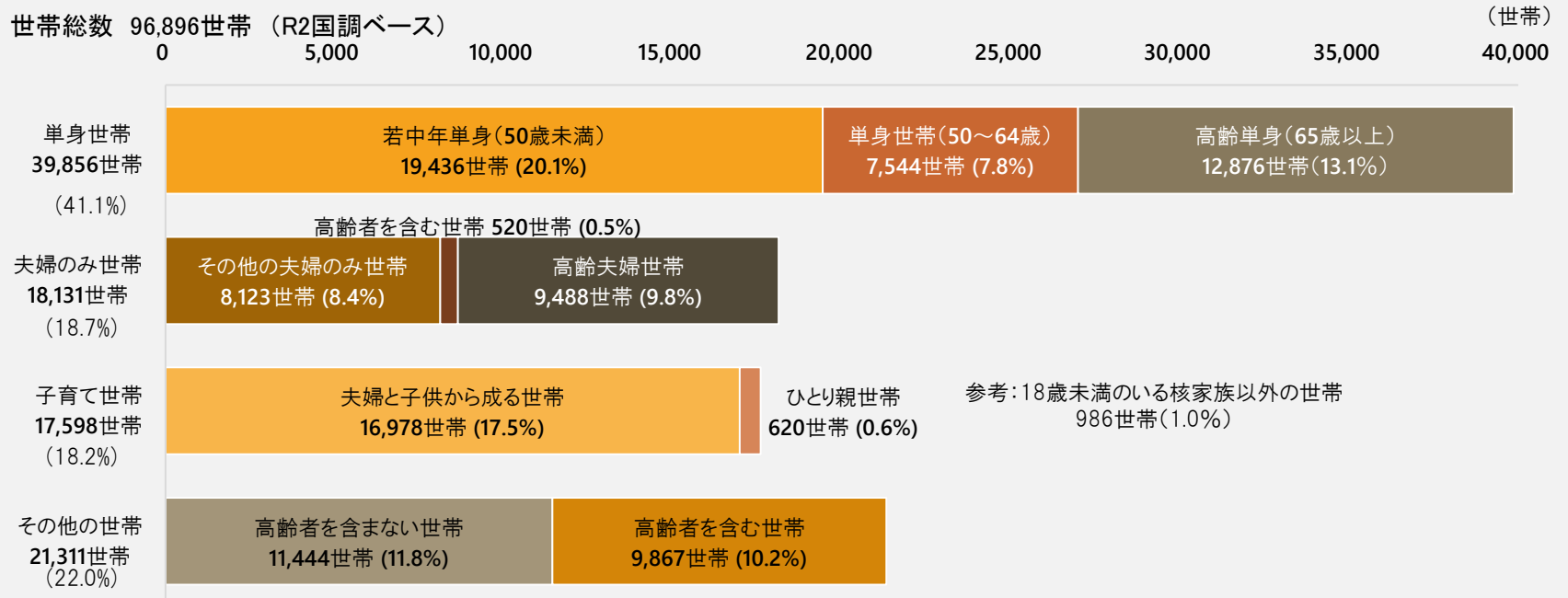
世帯人員数は1人（単身世帯）が増加しており41.1%となっている。

3人以上の世帯は平成27年の34.9%から2.7ポイント減って32.2%となっている。



## 5. 世帯の状況（令和2年）

総世帯のうち高齢単身者は13.1%、高齢夫婦世帯は9.8%となっている  
18歳未満のいる核家族世帯は18.2%であり、ひとり親世帯は620世帯と0.6%となっている



( )内の%は世帯総数に対する割合

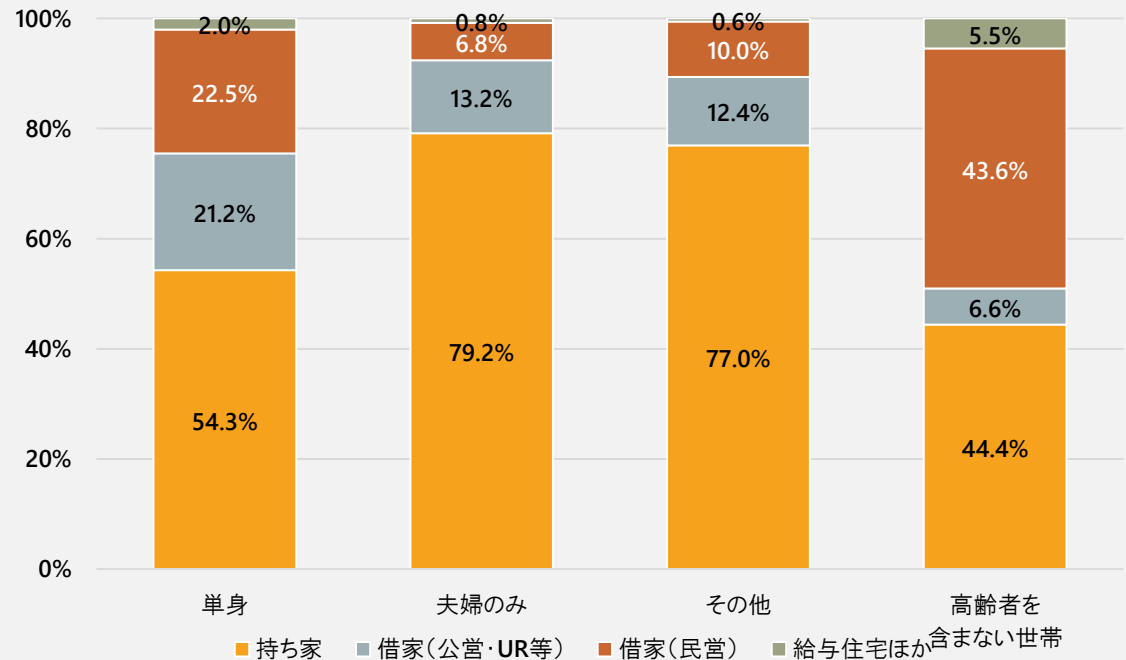
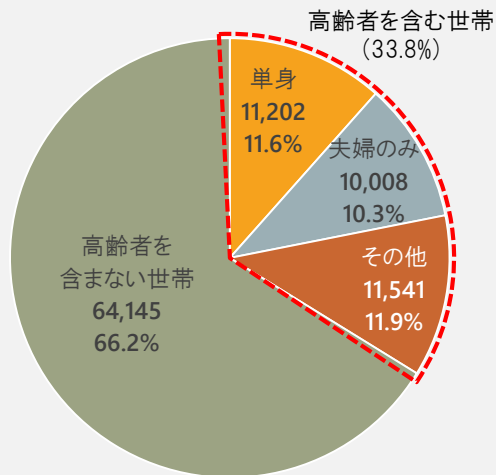
不明分を按分しているため、他のデータとの相違がある点を留意する必要がある

資料: 令和2年国勢調査

## 参考1. 高齢者の住まい（令和2年）

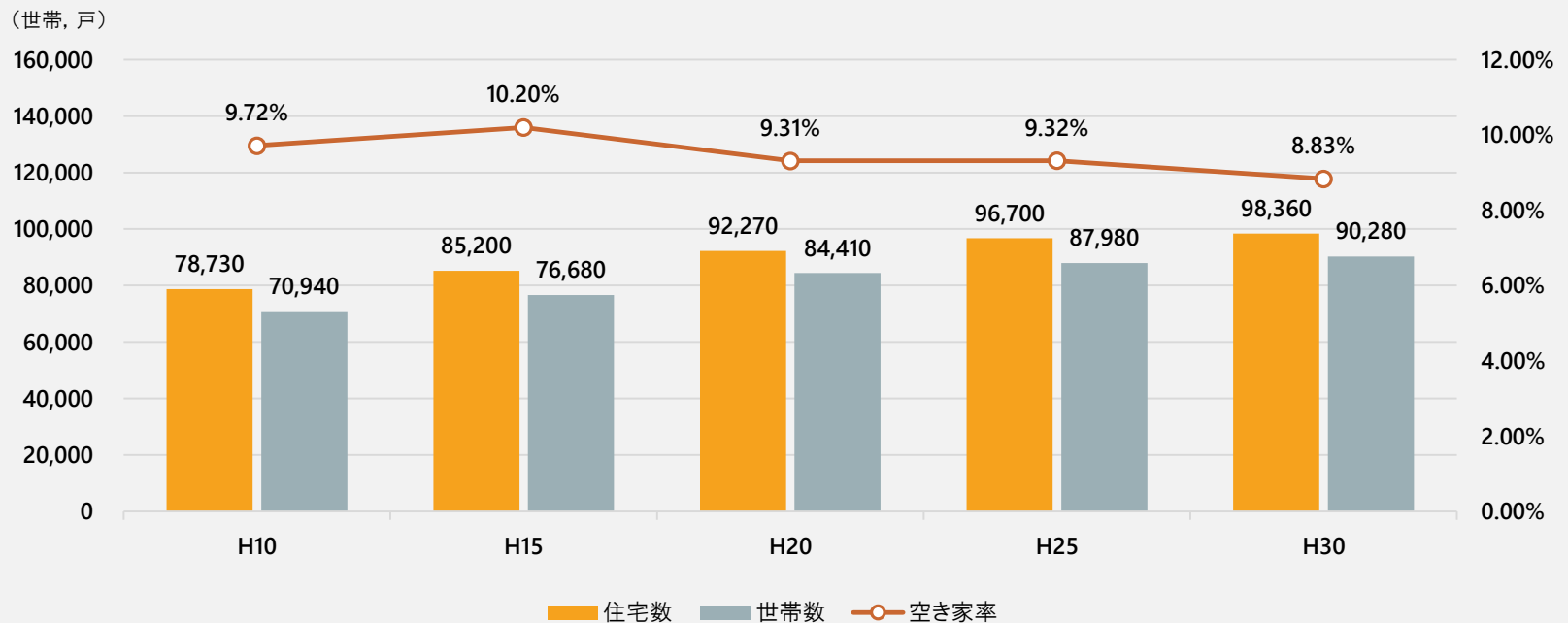
高齢者（65歳以上の世帯員）を含む世帯は33.8%となっている

高齢者の多くは持家に住んでおり、高齢単身者の54.3%が持ち家に住んでいる



## 6. 住宅ストック数と世帯数の推移

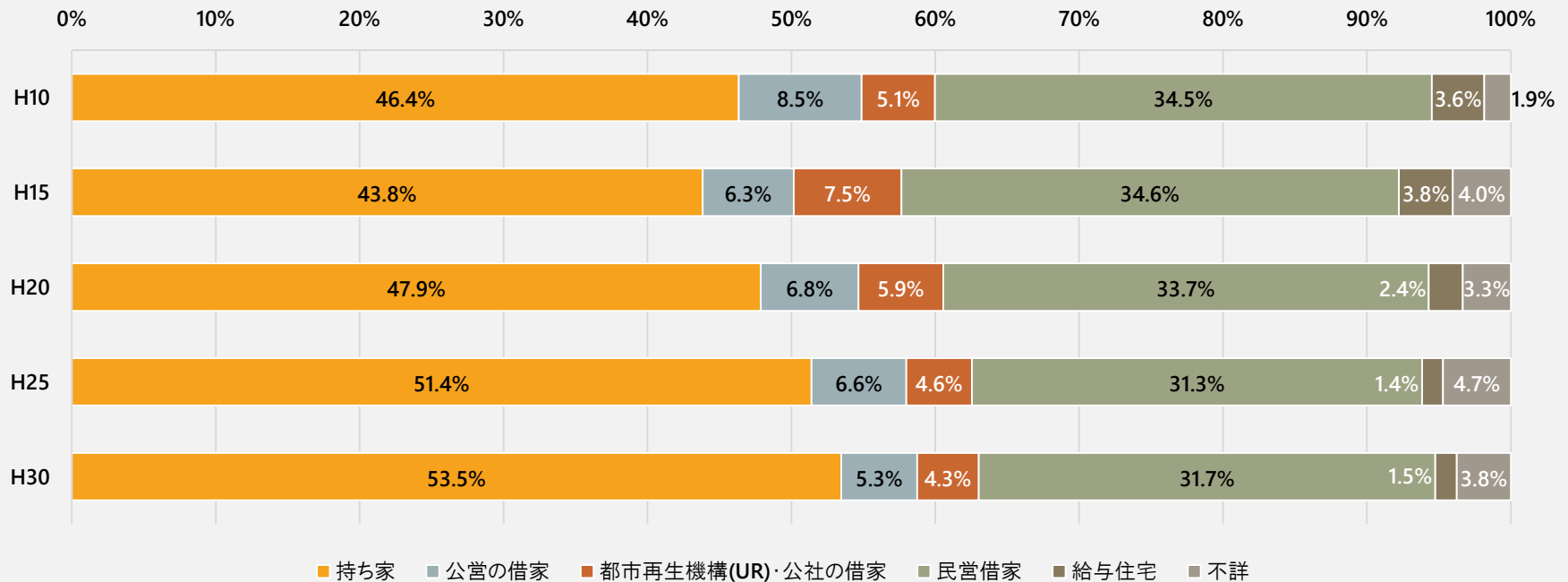
住宅ストック数は世帯数を上回り、住宅数と世帯数ともに増加傾向が続いている  
空き家率は平成20年以降9%前後で推移している





## 7. 所有関係別の割合の推移

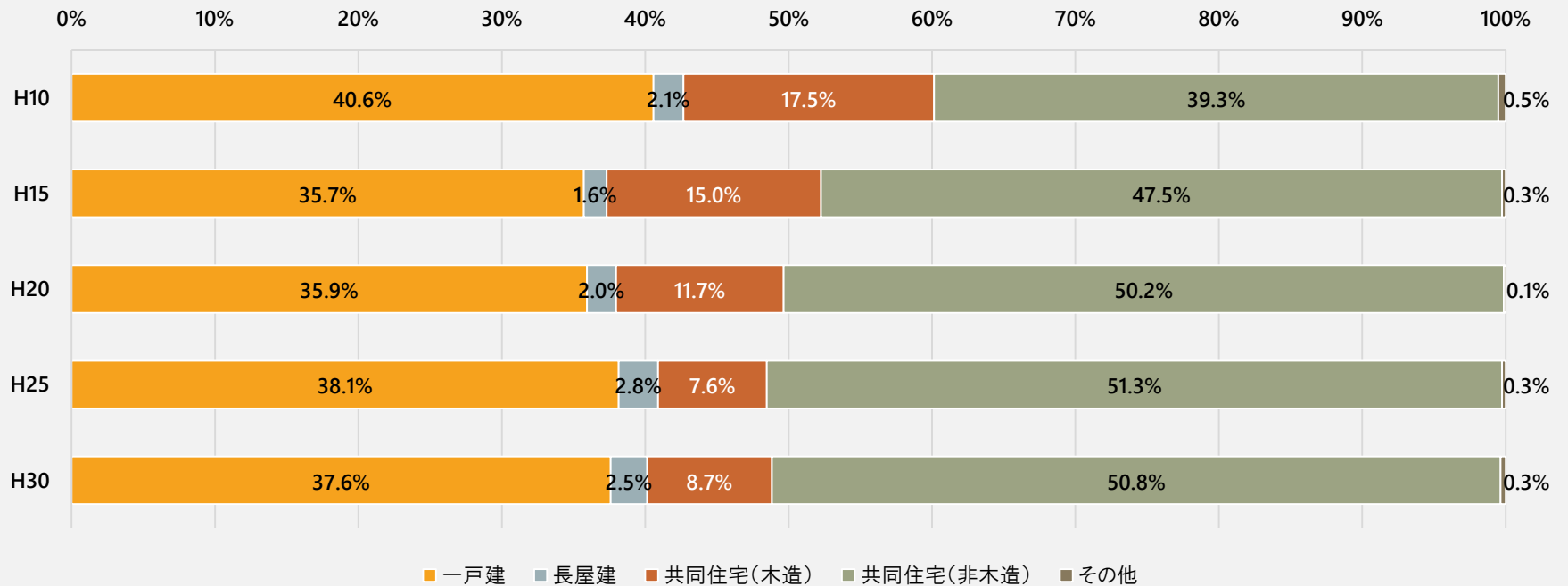
平成15年以降、持ち家の割合が増加しており平成30年には53.5%となっている  
 民営借家の割合は31.7%（平成30年）であり、平成25年から30年はほぼ横ばいで推移している



## 8. 建て方別の割合の推移

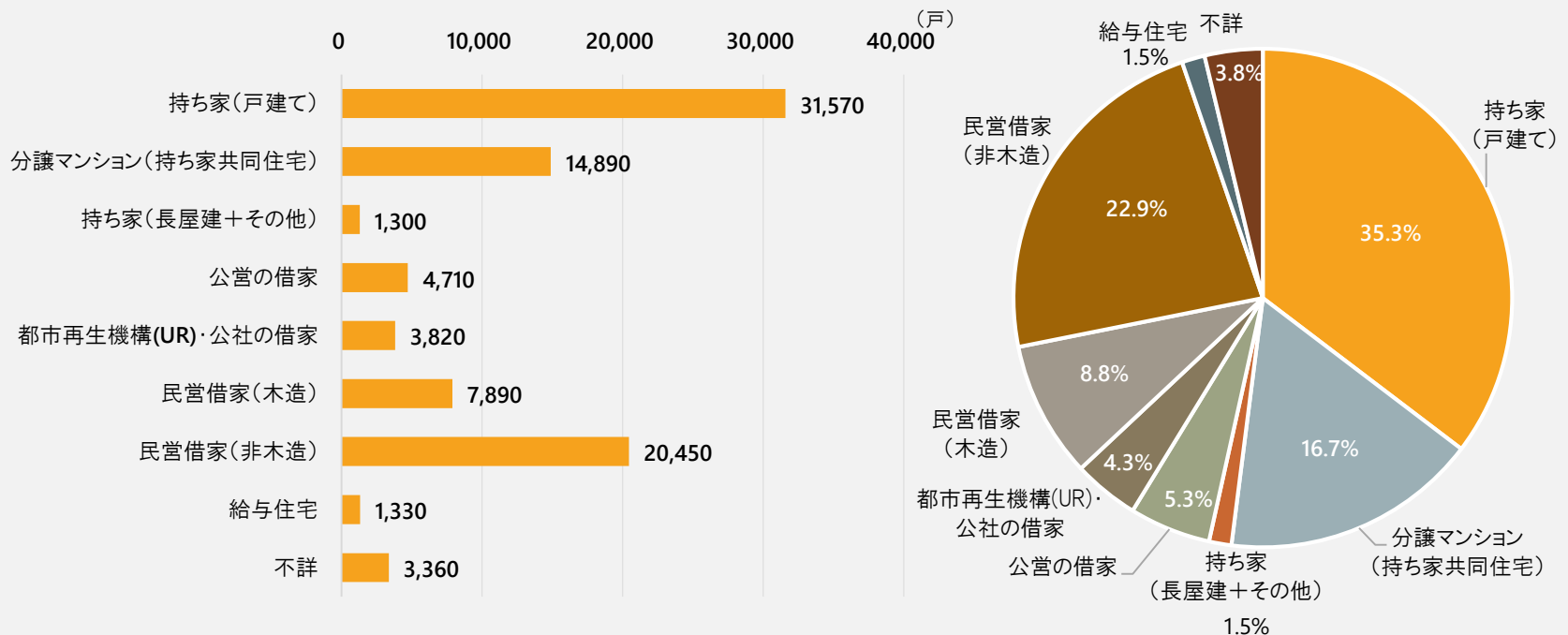
平成20年以降、共同住宅（非木造）が半数を超えている

平成25年から30年は、建て方の割合はほぼ横ばいで推移している



## 9. 住宅ストックの状況（平成30年）

住宅ストックのうち戸建て持家は35.3%、分譲マンションは16.7%となっている  
非木造の民営借家は22.9%、木造の民営借家は8.8%となっている

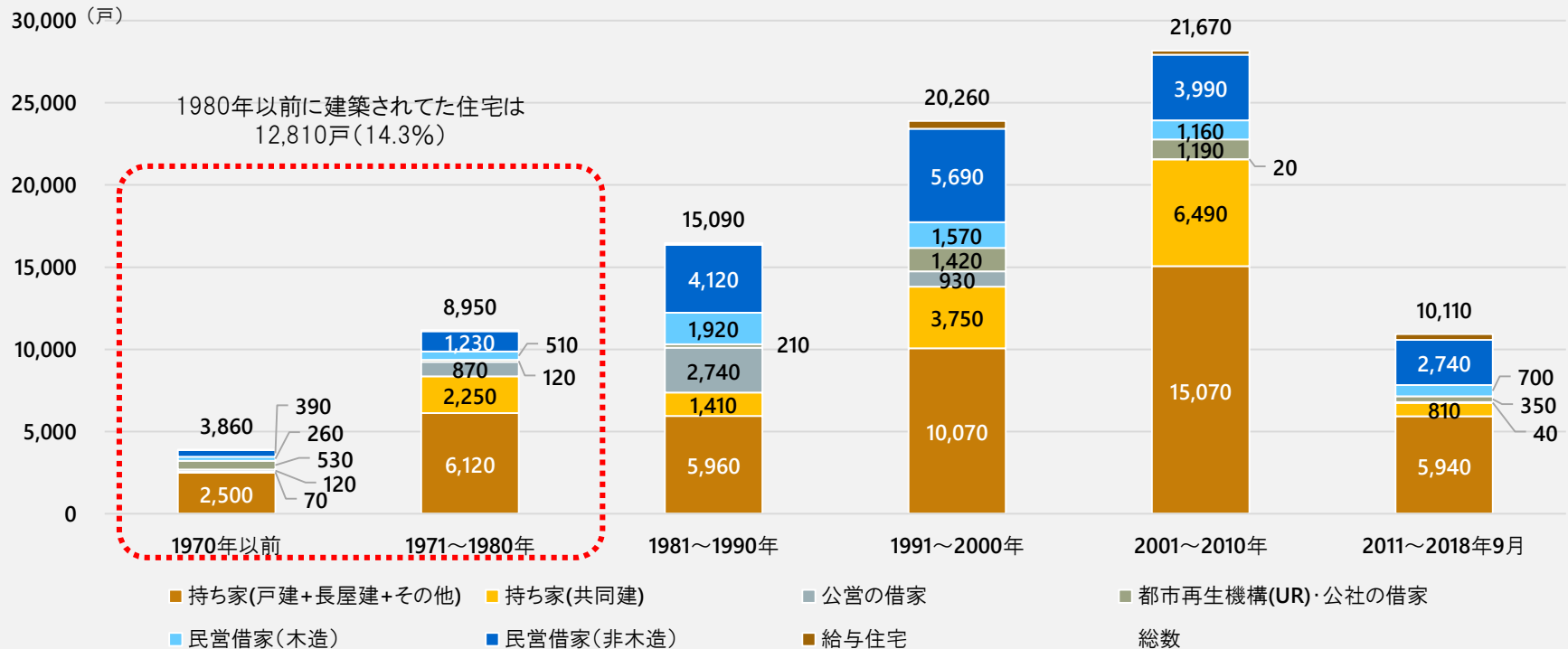


資料：平成30年住宅・土地統計調査

## 10. 建築年代別の住宅ストック（平成30年）

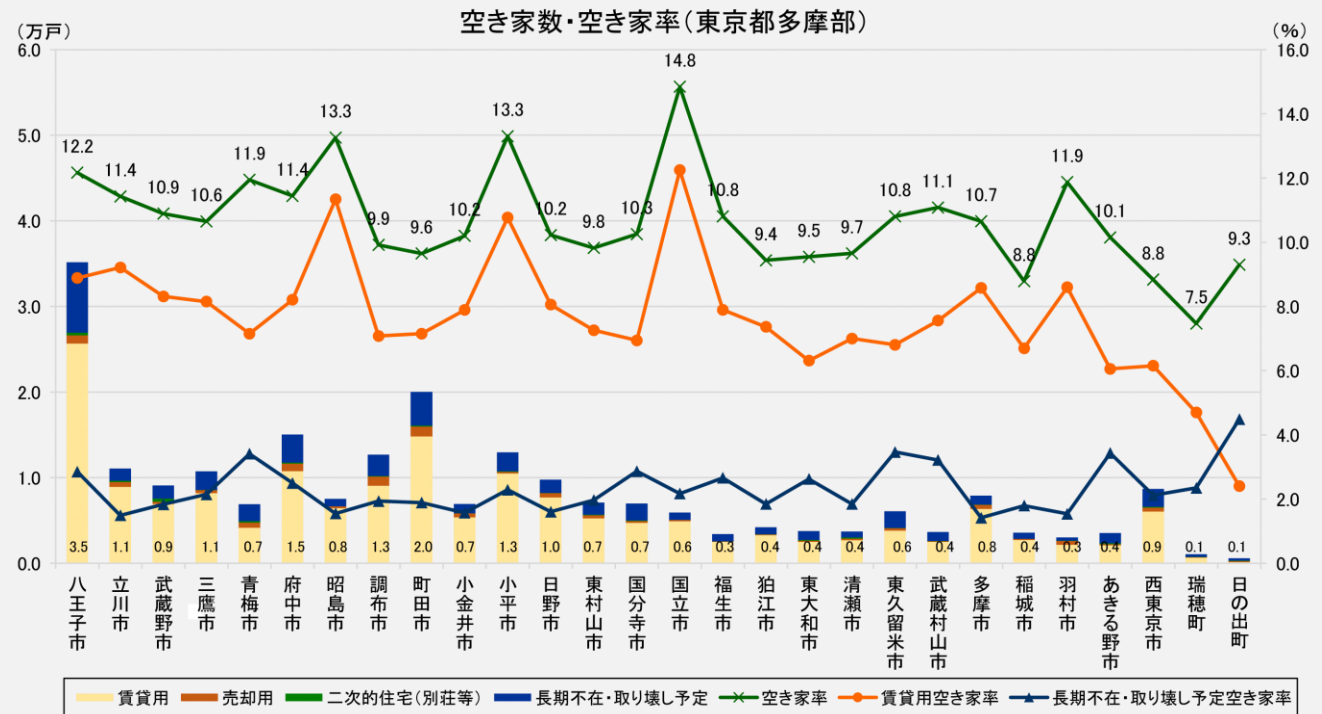
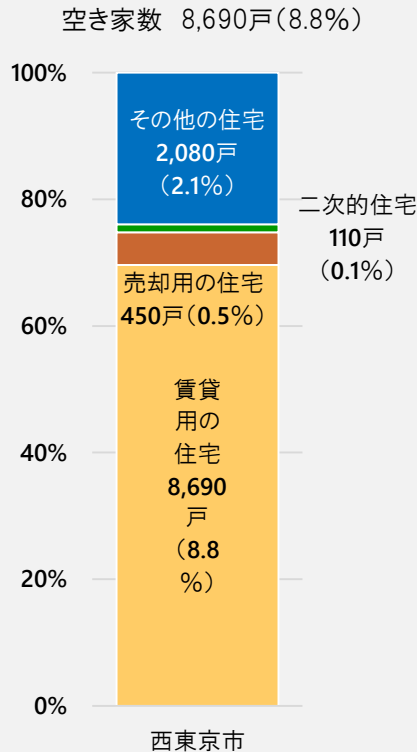
1980年以前に建築された住宅は12,810戸で14.3%となっている

住宅ストックでは2001～2010年に建築されたものが多く16.9%となっている



# 11 . 空き家数と空き家率（平成30年）

住宅総数のうち空き家は8,690戸で8.8%、その他空き家は2,080戸で2.1%となっている  
 空き家率は多摩26市のなかでは稲城市と並び最も低い

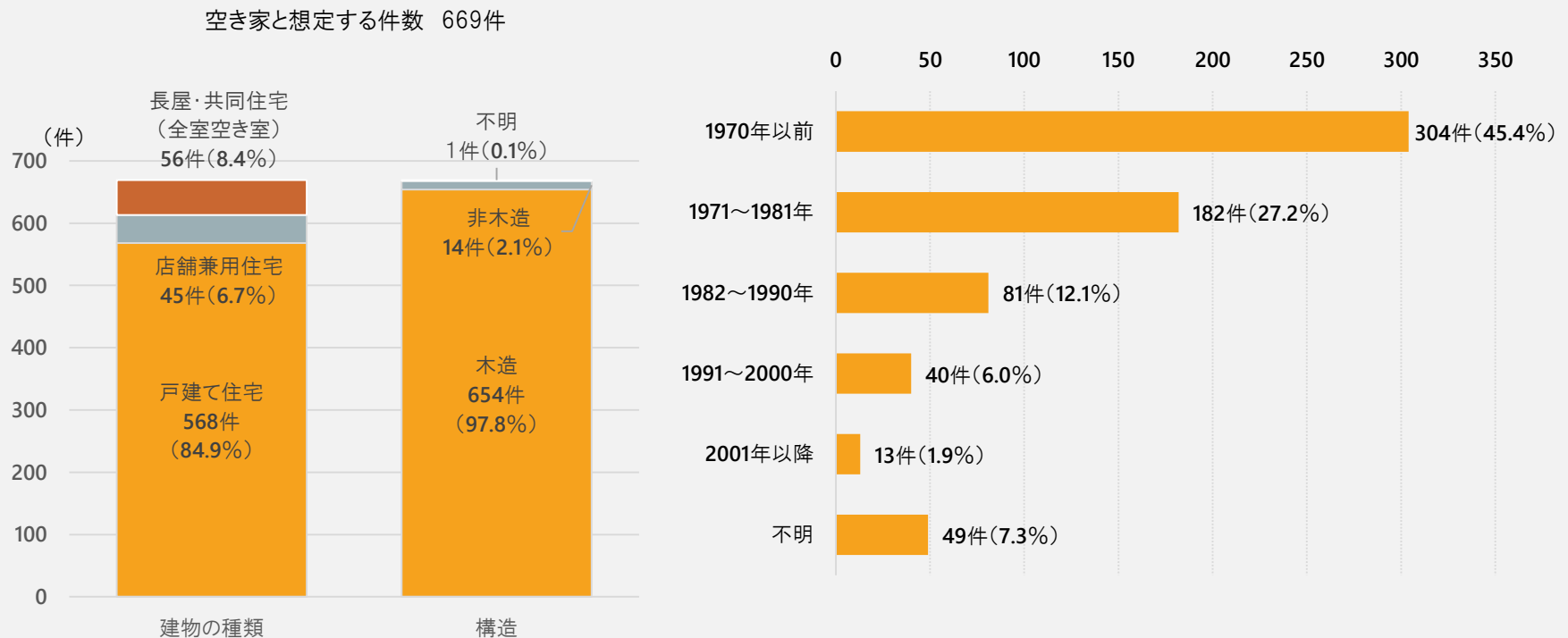


資料：平成30年住宅・土地統計調査／東京の住宅事情（東京都）

## 12 . 平成29年度空き家実態調査の結果

現地調査と所有者アンケートの結果、「空き家」と想定する件数は669件

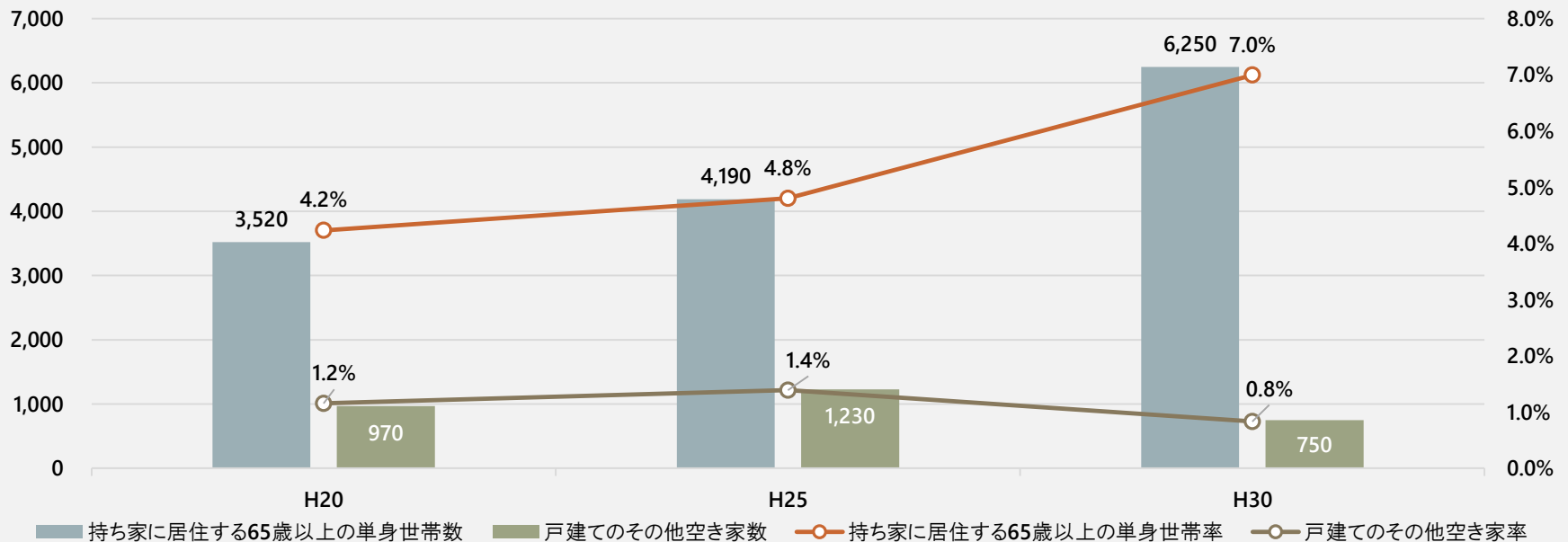
戸建て住宅が568件（84.9%）、1981年以前に建てられたものが486件（72.6%）となっている



資料：西東京市空き家実態調査報告書(平成30年3月)

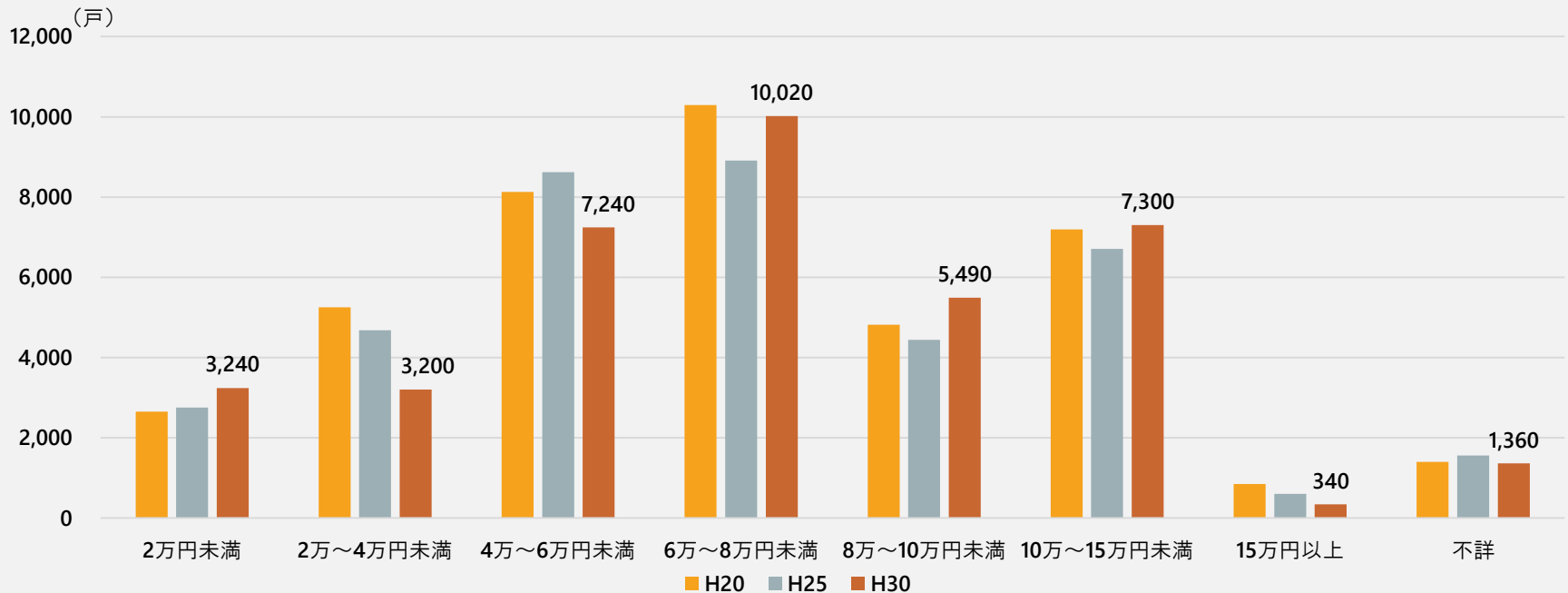
## 参考2. 持ち家に居住する高齢単身世帯

持ち家に居住する65歳以上の単身高齢者は6,250世帯で、主世帯のうち7.0%となっている  
持ち家に住む単身高齢者の割合が増加しており、今後も増加することが予想される



## 13. 借家の家賃・間代の推移

借家の家賃は6万～8万円未満が最も多く10,020戸で、借家の25.4%を占めている  
平成25年と比較して平成30年では、6万円以上15万円未満の価格帯の借家数が増加している

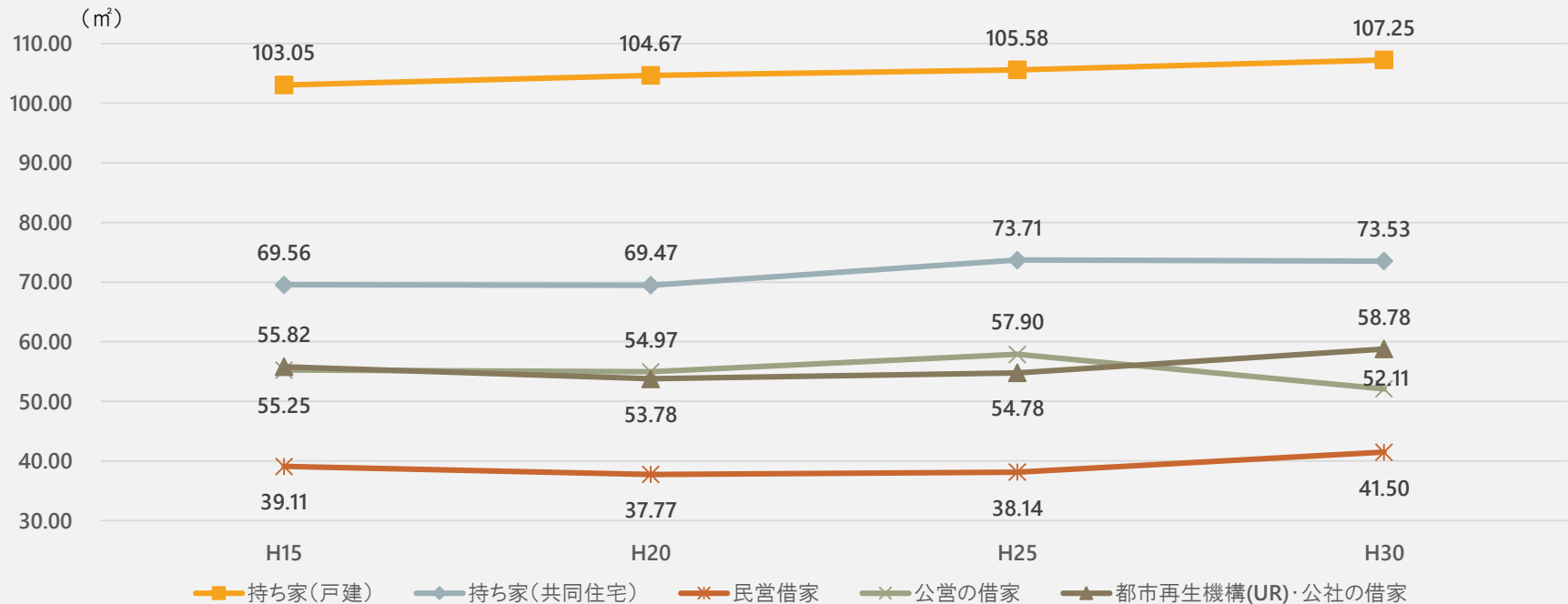




## 14. 住宅ストックの平均床面積の推移

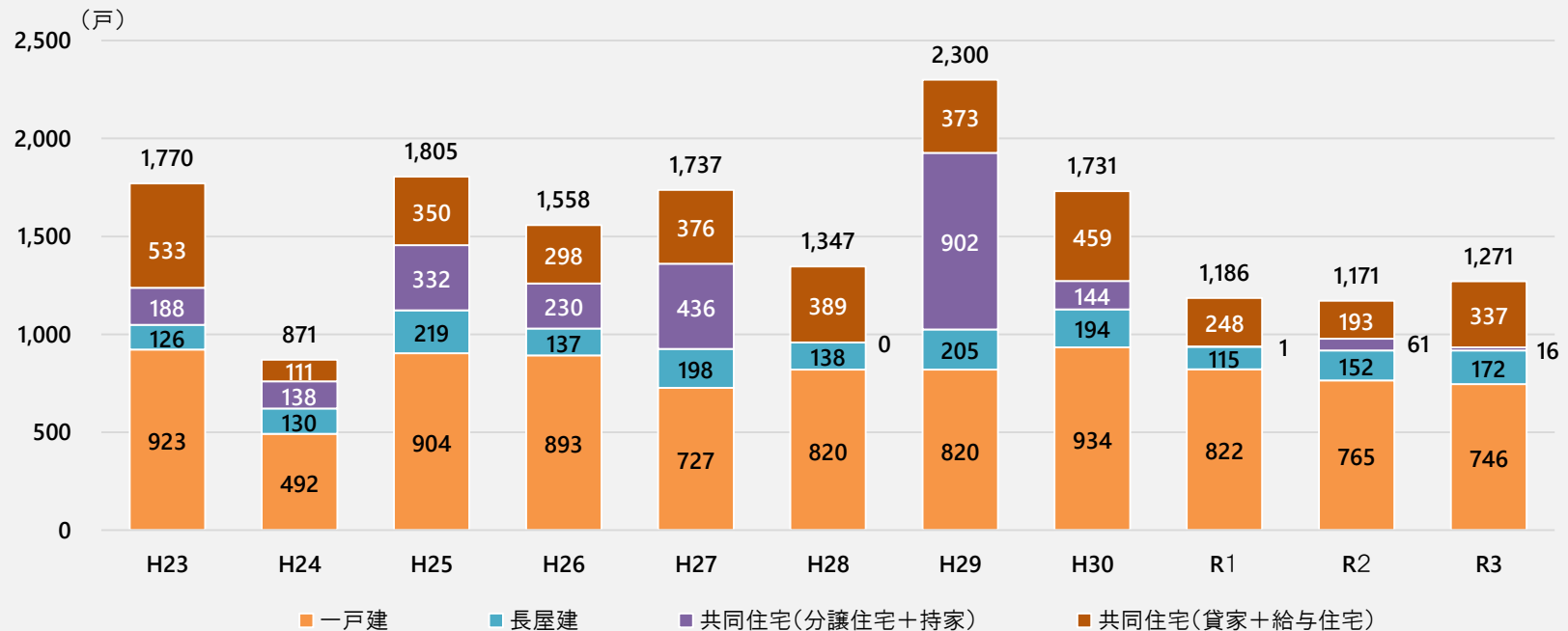
1 住宅当たりの平均床面積はやや増加傾向にある

持ち家（戸建て） $107.25\text{m}^2$ と民営借家 $41.50\text{m}^2$ とで1住宅当たりの平均床面積は大きな差がある



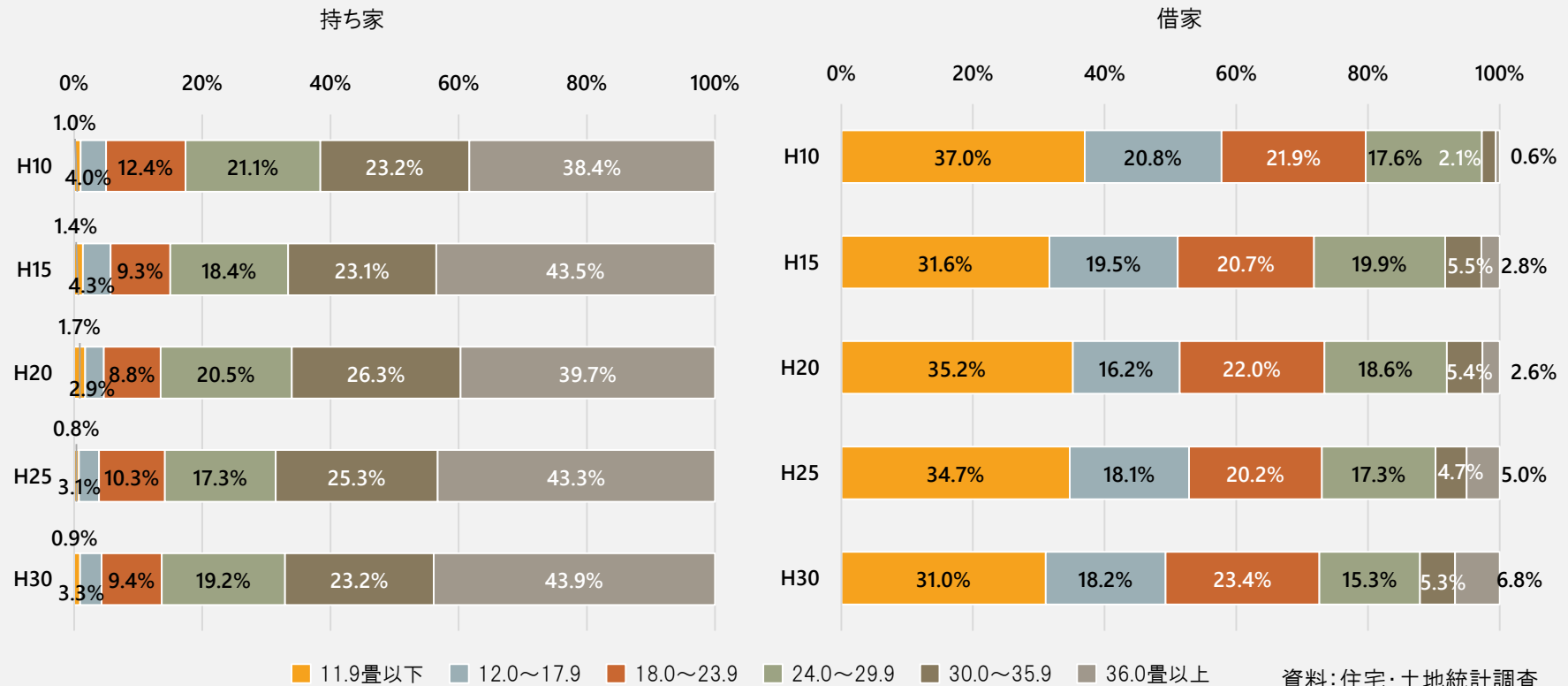
## 15. 新設住宅の着工戸数の推移

共同住宅（持家＋分譲住宅）を除いて1,000～1,500戸程度で推移している（平成24年を除く）  
 一戸建は同程度の水準で推移しているが、共同住宅は年によって着工数が大きく異なる



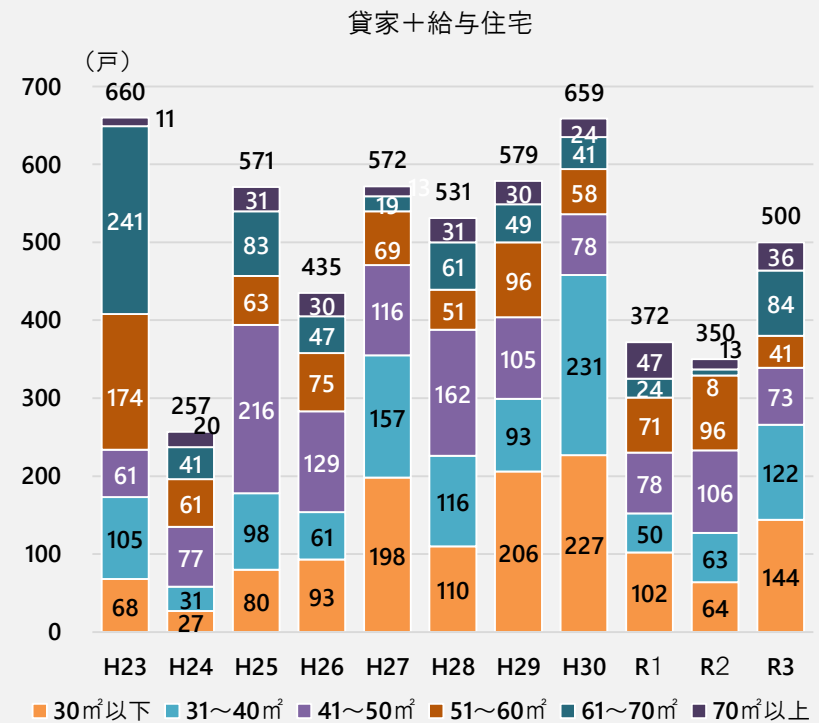
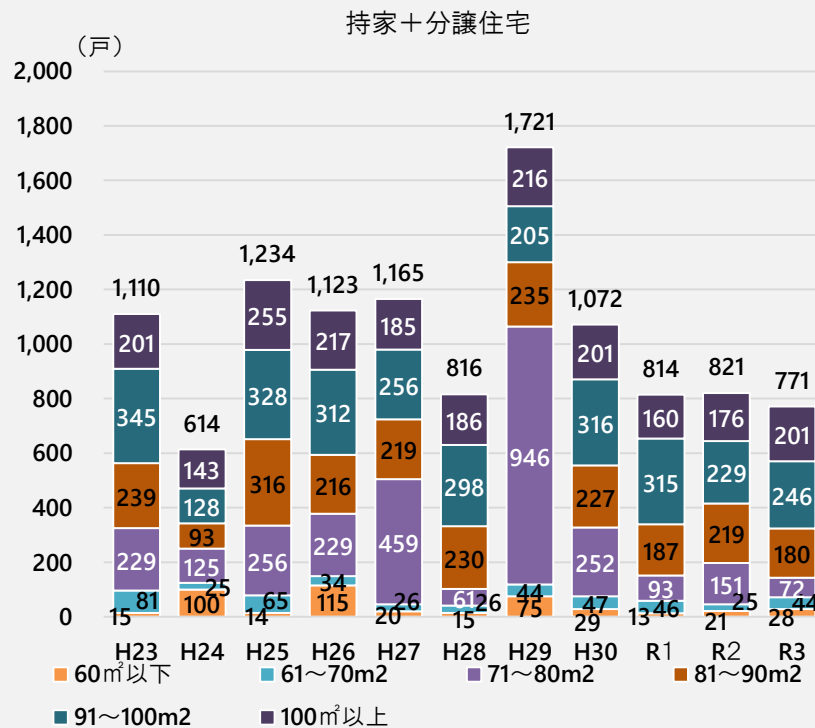
## 参考3. 持ち家と借家の居住室の畳数の推移

居住室の畳数は経年であり大きな変化はなく、持ち家と借家で住宅の広さに大きな差がある  
持ち家では30.0畳以上が半数を占めており、一方で借家は17.9畳以下が約半数となっている



## 参考4. 規模別の新設住宅の着工戸数の推移

規模別の新設住宅着工戸数は利用関係（所有関係）により大きな差がある  
 持家＋分譲住宅は70㎡以上がほとんどを占めている



資料：住宅着工統計（年次）

# 現行計画の位置付け

